

の 大 方 き 歩 藝

ー上野の杜のキャンパスガイドー

第10回★不忍荘

歴史ゆかしい「上野」という場所に校地を構え、明治以来の伝統を誇る藝大の隠れた「名所」を毎回テーマを変えて紹介する。

木造数寄屋造による風情ある建物

上田喜一郎

音楽学部側正門を入り守衛所の前を右に曲がって、左に事務局管理棟、右に大学会館を見ながら、その間の小径を下ったところ、小さな庭園の榎（ニレ科）の古木に寄り添うように建つ木造和風数寄屋造の建物が「不忍荘」である。大学の施設とは思えない風情の建物は、全国各地から来学する非常勤講師の宿泊や職員の会合などに利用するために、一九七九（昭和五十四）年に建設されたもので、現在まで数多くの大学関係者によって利用されている。不忍荘の一階には、玄関を入って正面が坪庭、右側が集会や会合等に使われる十六畳（床の間、書院付）と十畳（広縁付）二間で構成する大広間、そ

れに待合い、厨房がある。また、玄関を上がって左側には、浴室、洗面、便所、控室があり、その奥は裏玄関、坪庭の裏側は、納戸となっている。玄関を上がって左に折れると階段があり、二階には南側に和室の宿泊室が三室、手前に談話室、奥に洗面と便所がある。建築手法的には、和風建築の第一人者である吉田五十八先生設計の松岡邸を参考に、その手法（ディテール）が生かされた造りとなっている。歴史を辿ってみると、不忍荘の建っている場所は、かつて東京美術学校と東京音楽学校とを隔てていた帝国博物館から桜木町へ抜ける西四軒寺通り跡に位置している。今も当時の道路と一



上：坪庭（1階）
左：玄関へのアプローチ



上：大広間の縁側
下：大広間（1階）



「不忍荘」外観



談話室（2階）



浴室（1階）



上：宿泊室（2階）
下：庭園の灯籠

部土塁が残されているが、土塁の内側には、木造平屋建ての官舎とその脇に古井戸があった。その後、これらを取り壊して鉄筋コンクリート造平屋建ての車庫が建設された。この車庫建設に関しては苦い思い出がある。工事が始まった頃、建物脇の榎の古木に白蛇が纏わり付いていた。古井戸の息抜きとお払いを怠っていたため、嫌な感じがしていたところ、車庫完成後に足を骨折してしまった。

一九七八（昭和五十三）年に現在の事務局管理棟と車庫が建設された後、奥まった地にあった車庫は、その躯体を残しながら木造数寄屋造の不忍荘に改築することとなった。玄関、縁側、建具障子廻り、天井など、平面的にも断面的にも大変苦勞して造ったこの建物の中には、鉄筋コンクリート造の車庫が隠れている。
（うえだ きいちろう／元施設課建築係長）



庭園に立つ榎の古木